

除夜の鐘

令和2年12月第4週放送

今年も、年の瀬が迫ってまいりました。^{ごようおき}御用納めやお正月準備など、例年街も賑わい、行きかう人々の足音も忙しく聞こえてくる時節となりました。

そして、週の半ばを過ぎると、いよいよ大晦日^{おおみそか}を迎えます。大晦日には、翌日に新年を迎える準備に余念がありません。

慌ただしい大晦日も夜が更けて、昼には賑やかだった町が静まり返る頃、夜空に響く鐘の音が波の音のように一声毎に、闇の中から浮かび、また闇の中に消えていきます。

それは大晦日の除夜の鐘です。除夜の鐘は、私たちの持つ^{ぼんのう}煩惱の数に相当する百八つ撞かれるものとされています。家の中で、または屋外で鐘の音に耳を澄まし今年の一年を振り返る、そんな過ごし方をされている方もあるかと思います。

鐘の音は、その音が届く瞬間一番大きく聴こえ、その響きは時間の経過とともに小さくなっていき、次第に耳に聞こえる音が無くなります。

煩惱とは、私たちの生活について離れず、苦しみの原因となるものです。一方で、その煩惱の数に合わせて、音として聴く鐘の響きは、一旦私たちの耳に届くものの時間とともに無くなってゆく、実体がないものです。

考えてみますと、煩惱を鐘の音に託しているのは、煩惱の姿を私たちに伝えるためなのかもしれません。

鐘の音は、煩惱が常に変わずに私たちを苦しめるようなものとしてあるのではなく波のように現れ、次第に消えてゆく実体のないものであるという事に、気づかせてくれます。

『 禅のこころ - 曹洞宗 - 』

大晦日、お寺から届く鐘の音に耳を傾け、その音に、自分自身の思い通りにならない苦しみを託しつつ消えゆくのを見守る、そんな除夜の過ごし方もいかがでしょうか。

— 終 —